

授業科目

臨床生理学実習II

担当教員名 渡邊 博昭	対象学年	3	対象学科	臨床
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	45

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	○	◎	○	◎

授業の概要

- 1 超音波装置（腹部・頸動脈・甲状腺）を走査し、スケッチを行う。
- 2 肺機能検査を行う。
- 3 脳波の電極を設置して記録を行う。
- 4 聴性脳幹反応検査を行う。
- 5 神経伝導検査を行う。

授業の目的

臨床生理学IIの知識を基礎に、神経・筋系、呼吸器系と腹部超音波検査についての技術と心得を習得する。

学習目標

- 1 脳波計を操作できる。
- 2 脳波の判読の流れを説明できる。
- 3 誘発脳電位を測定できる。
- 4 神経伝導速度を測定できる。
- 5 換気機能検査を実施できる。
- 6 呼吸機能検査のデータを評価できる。
- 7 超音波装置を操作できる。
- 8 超音波像を評価できる。

授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1-4	超音波検査1 腹部臓器の描出とスケッチ	実習（学生同士が検者と被験者となりプローブを走査する）	渡邊 博昭
5-6	超音波検査2 甲状腺の描出とスケッチ	実習（学生同士が検者と被験者となりプローブを走査する）	渡邊 博昭
7-10	超音波検査3 頸動脈の描出とスケッチ	実習（学生同士が検者と被験者となりプローブを走査する）	渡邊 博昭
11-12	超音波検査4 超音波検査のまとめ	実習・実技（頸動脈エコー）	渡邊 博昭
13-16	呼吸機能検査 測定とデータの整理	実習（学生同士が検者と被験者になり肺活量を測定する）	渡邊 博昭
17-22	脳波・誘発電位・神経伝導検査の記録	実習（学生同士が検者と被験者になり記録を行う）	渡邊 博昭
23-24	呼吸機能検査のまとめ	実習・実技（呼吸機能検査）	渡邊 博昭

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書	最新臨床検査学講座 生理機能検査学	東條尚子、川良徳弘 他	医歯薬出版	2017年	6,000円+税	
参考書						
その他の資料	配布資料					

評価方法

レポート50%、実技試験50%にて評価する。

履修上の留意点

臨床生理学IIで学んだことをしっかりと認識して実習に臨むこと。知識が不足している場合は実習に参加できないことがある。積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ全てのレポートを提出すること。
参考書は生体計測装置学でレポート作成等に利用して下さい。

オフィスアワー・連絡先

月曜日3・4限、火曜日3・4限 N303研究室 hiroaki-watanabe@nuhw.ac.jp